

動物の診察室から

○ 1 ○

一九九八年十二月のある日曜日朝、「もしもし、白山公園（新潟市中央区）のサルが逃げたので、至急公園に来てください」と電話がありました。誰かが鍵を破って逃がしたとのこと。獣医師数名が白山公園に集合し、逃げたサルを確認、



捕獲されたばかりの白山公園のサル

サルが逃げました！

新潟市の担当者と今後の対策を協議することになり、そして、それは大変な騒動の幕開けとなるのです。

年末の白山公園を奔走

内にいるサルを白山公園外に出さないこと、年末

マスの四日前に無事捕獲された。そして平穏な生活が始まるはずでしたが、白山公園の二ホンサル、ボス、

白山公園では、現在は四頭の二ホンサルが飼育されていますが、九八年以前には三十頭以上のサルが飼育されており、飼育状態が過密なため、県外の施設に移されました。そして、その代わりとして五頭のサルが新しく飼育されていますが、新しいサルが来て間もなくその中の二頭がケ

防車に出勤してもらい大きな網で、サルがいる木ごと覆うことにしました。その様子は「年末の大捕物」として、テレビの全国版で放映されることになったのです。

そして平穏な生活が始まるはずでしたが、白山公園の二ホンサル、ボス、太郎、花子、のり子の受難はまだ続くのでした。

もなくその中の二頭がケイン発作を起こし死亡し、解剖検査の結果鉛中毒が疑われました。そのため、市と獣医師会などで、サルたちの健康診断について話し合いが始まろうとした矢先の出来事でした。

オスは公園を離れることなく、その後製作したトランプケースで、クリスを鉛が入っていないものに塗り替えてから、もとの場所に戻されました。

そうむら・卒業。広島、横浜でインターン後新潟市中央区で動物病院を開業。現在、県獣医師会新潟支部支部長、新潟市獣医師会会長などを歴任。趣味はトライアスロン。



そうむら・卒業。広島、横浜でインターン後新潟市中央区で動物病院を開業。現在、県獣医師会新潟支部支部長、新潟市獣医師会会長などを歴任。趣味はトライアスロン。

草村 正人

＝毎月第2・4木曜掲載＝

